オーディオ実験室収載

TruPhase の導入(23)
—MQA 音源の音質確認(3)—

１．はじめに

前報(22)に引き続き、MQA 音源を聴いてみます。

２．TruPhase の試聴方法

これまでの経過を踏まえて P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

音源は fidata HFAS1-S10 に収納し、USB 経由で Brooklyn DAC+に送り出します。

fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

音源は、ディスコグラフィのページで報告してきた、ワーナーミュージック社の一連の MQA 音源と OTTAVA の MQA 音源から選択します。

Beethoven　交響曲第 9 番「合唱」

フルトヴェングラー指揮バイロイト祝祭管弦楽団

ワーナーミュージック　WPCS-28420

Berlioz　幻想交響曲

ミュンシュ指揮パリ管弦楽団

ワーナーミュージック WPCS-28421

Elgar 他　チェロ協奏曲他

デュ・プレ(チェロ)／バルビローリ指揮ロンドン交響楽団他

ワーナーミュージック　　WPCS-28424

ラスト・コンサート

MJQ

ワーナーミュージック WPCS-28250

ブラームス 交響曲第 1 番

シャルル・ミュンシュ指揮パリ管弦楽団

ワーナーミュージック　WPCR-28422

A.ヴィヴァルディ　四季抜粋他

UNAMAS String Quartet

OTTAVA　OTVA-0020

３．TruPhase の試聴結果

Beethoven の交響曲第 9 番「合唱」は、古いモノーラル録音です。正相で定位が広がりますが、逆相にすると音像が中心に寄ってきます。MQA のデコード表示は 176KHz ですが、録音自体が古いので、印象の把握は困難なところがありますが、ソリストの力強い歌唱の雰囲気は伺えます。

Berlioz の幻想交響曲は、正相で定位が曖昧ですが、逆相にすると音像が明瞭になり、定位がしっかりしてきます。MQA のデコード表示は 176KHz で、以前の印象より色彩感がよく出ています。

Elgar のチェロ協奏曲は、正相で定位が曖昧ですが、逆相にすると、デュ・プレのチェロの音の芯が明瞭になり、定位がしっかりしてきます。MQA のデコード表示は 176KHz で、以前の印象よりデュ・プレのチェロの躍動感がよく出ています。

MJQ のラスト・コンサートは、正相で定位が曖昧ですが、逆相にすると、アタック感が明瞭になり、定位がしっかりしてきます。MQA のデコード表示は 176KHz で、以前の印象より臨場感が増しています。

ブラームスの交響曲第 1 番は、正相で定位が曖昧で、騒がしい感じですが、逆相にすると、定位がしっかりします。MQA のデコード表示は 176KHz で、以前の印象より、この曲らしい厚みが増しているようです。

ヴィヴァルディの四季抜粋他の UNAMAS String Quartet の演奏は、正相で定位も音像もしっかりしています。MQA のデコード表示は 176KHz で、以前の無機質な印象より曲としての表情が出ています。

４．まとめ

fidata 収納の MQA 音源の再生において、それぞれの持ち味が発揮されました。また、位相の把握も十分に可能でした。

以上